

地域課題解決へ 多様な探究発表

三戸高生が三戸小中の生徒に初の報告会



先輩の探究報告を興味深く聞く中学生

三戸 青森県立三戸高(直町年行校長)は5日、「三戸みらいキャンパス」の探究報告会を、初めて小中一貫三戸学園三戸小中(島守詩子校長)で開いた。高校1、2年生約60人が中学1、2年生約110人を前に、地域社会の課題解決を探究した結果を発表。後輩は先輩の姿に刺激を受けながら地域への関心を高めた。

(熊谷勝之)

後輩は地元に関心高める

三戸高は毎年、探究報告会が、今回は地元の中学生を校内で開いている。に高校生の活動を見ても

らい、進路を考えるきっかけにもするため、三戸学園と連携して開催することにした。

報告会の前半では、4ブース・3部に分かれて合計12項目を個別発表。高校生は、地域の特産物を使った商品開発や地域防災への関心を高める取り組み、イベント企画や「推し活」研究など、多様な探究結果を発表した。

後半の代表発表では、中学生と高校生による万博国際交流プログラムの成果、高校生による弘前大総合型選抜試験への挑戦と、せんべいのみみを使った新商品開発が報告された。

発表を見守った青森大の柳引素夫教授と八戸学院大の井上丹特任准教授は、「複数の探究を組み合わせて無数の未来が見えてくる」「探究しようとした目的を忘れず、理解したことを整理して自信やキャリア形成に生かして」などと助言した。